

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 槻田中 学校】

1 実践テーマ	I ・ III
2 実施対象者 (学年・人数)	槻田中学校 ・ 1年生 110名 ・ 2年生 106名 ・ 3年生 92名 ・ 保護者・地域より 15名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (O)
4 目 標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リオパラリンピック車椅子テニス日本代表二條実穂氏の話 を聞いたり、競技用車椅子の使用体験をしたりすることにより、 東京2020大会に向けた機運醸成を図る。 ・ 車椅子を使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考 え、障害をもった方たちとの共生社会について考える。
5 取組内容	「リオパラリンピック車椅子テニス日本代表二條実穂氏 との交流を通して」 ○ 二條実穂氏の体育館入場 ○ 二條実穂氏の紹介 ○ 二條実穂氏による講話 ・ プレゼンによる報告（40分） ○ 競技用車いす体験会（50分） ・ 競技用車いす体験（生徒全員参加） ・ 競技用車いすテニス体験（代表生徒・教職員） ○ 二條実穂氏への質問タイム（10分）
6 主な成果	○ 二條実穂氏の生き様や絶対にあきらめない精神力、リオパラ リンピックの様子など大変わかりやすい講話であった。 ○ トップアスリートである二條実穂氏の話により、生徒は東京 オリンピック・パラリンピックへの期待や意識を高めることが できた。生徒達に大変好評で、興味深く聞いていた。 ○ 障害をもった選手への尊敬の念を持ち、その心情の強さを感じ

	<p>じ、人の生き方について考え、生徒自身の目標へとつなげることができた。</p> <p>○ 車いすを使う立場になって考え、障害をもった方たちと共生する豊かな社会をつくろうとする心情を養うことができた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○ 二條実穂氏の強い要望から、滅多に乗ることがない競技用車いすを参加生徒全員に体験させることができた。</p> <p>○ そのために、北九州市立障害者スポーツセンターと連携し、競技用車いすを10台借用した。</p> <p>○ 二條実穂氏の車いすでの移動や対応が、学校側として初めてだったため心配したが、二條実穂選手が介助を必要としていることをはっきりおっしゃってくださったので、スムーズに送迎、進行することができた。</p>
8主な課題等	<p>○ 二條実穂氏は、以前から北九州市と交流が深いため、今後も、可能な限り北九州市内の小中学校に訪問して、講演会や車いす体験学習を子どもたちで行いたいと切望されている。</p> <p>○ 現在、二條実穂氏は、全国各地において講演活動を行っている。今後とも、直接メールや電話等で講演依頼をすることができるので、推進校での活用が大いに期待される。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○ 昨年度より、オリ・パラ推進校に指定していただき、取組を重ねる度に、オリンピック・パラリンピックへの興味、関心が高まってきている。</p> <p>○ 今後も、以下の重点目標を達成すべく、様々な取組を通して東京2020大会への機運醸成を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ及びオリ・パラの意義や歴史の理解 ・海外からの客人をもてなすボランティア精神の育成 ・インクルーシブな社会の構築 ・日本及び世界の文化・伝統の理解 ・スポーツへの興味・関心の向上 <p>○ 大会開催後も、引き続き取組を推進していくことで、東京2020大会後に価値あるレガシーを残していきたいと考えている。</p>